

# 美味しい椎茸を育てよう！

## ◎本伏せ（ほんぶせ）

6月～7月



井桁積み



よろい伏せ



鳥居伏せ



ムカデ伏せ

### 目的・作業内容

害菌の発生を抑え、しいたけ菌の伸長を図るため、夏の暑さで菌が弱らないように、ほだ木の間隔（10～15cm程度）を保つようにほだ木を組み替える（本伏せ）。

11月下旬から12月にかけて、最低気温8℃以下が安定するようになれば、形状の安定と収穫のしやすさを追求し、出来れば合掌組みにする（ほだ起こし）。

### 最適な条件

- ・風通しが良い
- ・十分に雨が当たる
- ・排水が良い
- ・湿度が低い
- ・直射日光が当たらない

梅雨時期には周辺の雑草や低木を刈り払い、清潔にし、通風が良くなり雑菌や昆虫による食害を防止する。害菌の発生が目立つ時は天地返しを行い均一化を図る。

### 作業時期

6月～7月、木口に菌糸紋が現れる頃に実施する。高温、多湿になる入梅前に急激な温度変化と乾燥を避けながら、本伏せにする。



菌糸紋



合掌組み



金沢森林組合

電話：076-229-1131

住所：石川県金沢市永安町77

<http://www.kanazawa-forest.or.jp/>

金沢森林組合ホームページ



# 美味しい椎茸を育てよう！

## ◎仮伏せ（かりぶせ）

植菌後～6.7月頃まで



### 「仮伏せ(かりぶせ)」の目的と仕方

植菌した菌から原木に菌糸の活着を早めるために「保温・保湿」します。種駒は乾燥に弱いため十分に保湿して保護する必要があり、上手くいけば菌が種駒表面に白くなり、木口に菌糸紋が表れるようになります。そのためには保湿が大切です。ブルーシートで風よけし、スギ枝や藁・毛布等で適度な湿度を維持します。乾燥して木口が割れてくるようであれば適宜散水してやります。林内では雨がとおるように遮光ネットで枝葉を被せておきます。

同時に12月～3月は気温が低くシイタケ菌の伸長しやすい温度ではないため保温することも重要です。24度～25度で最も菌が伸長します。しかし、気温が上昇する4月以降に雑菌の活動も活発になります。それまでの気温が低い1月～3月に仮伏せにより早期活着をはかる事が大切で、シイタケ菌の生理活動を理解する必要があります。一例として、屋内の倉庫等に取り込んでシートにくるんでおくと良い成績を得ています。（散水できる状態に限る）

仮伏せ時の置き方ですが、井桁を組んだ横積みよりも縦積みの方が原木内部からの水分が抜けるため、菌糸活着が良いようです。

### 「仮伏せ」の期間

概ね6月～7月頃を目途に終了します。多湿で風通しが良くないと雑菌が繁殖しやすくなるためです。



金沢森林組合

電話：076-229-1131

住所：石川県金沢市永安町77

<http://www.kanazawa-forest.or.jp/>

金沢森林組合ホームページ

